別紙

第３回姫路市北部農山村地域活性化基本計画策定検討会での意見要旨

項　目	内　容
北部農山村地域を取り巻く社会情勢について	・人口を増やせる世代である 20 代から 30 代が異様に少なくなっており、今後、人口増が見込めないことを意味している。ただグラフを掲載するだけでなく、その意味を読み解いて記載してほしい。 ・計画の中に解釈を入れるのは難しい面もあり、本委員会でデータの解釈について説明を受けることと、計画へ記載することとは切り離して考えないといけないかもしれない。 ・林業も大変なことになっている。安富地域の森林構成は、人口といっしょで、逆ピラミッド、50～60 年生が 8 割を占めている。これがほったらかしになっている。降雨で倒れるようなものはたくさんある。６、７頁に林業の記述を入れて欲しい。 ・夢前町にはクロモジがたくさんあり、はがきの木などの資源もある。 ・はがきの木は、常緑樹で分厚い葉をつける木で、葉の裏につまようじで字を書き、実際に切手を貼れば、郵便物として扱ってくれる。 ・はがきの木は夢前や安富の山に行けばたくさんある。そのほかにも、掘り起せば資源となるものはたくさんある。 ・自然資源や歴史資源を北部の魅力として基本計画に記載することが、住民や外部の人にとっての魅力向上につながる。どこまでかけるかわからないが、８頁に追記をしてほしい。
施策の展開方向について	・２月に花街道の事業を立上げ、1 回目を無事終えた。それまでに、神戸大学の先生がコーディネーターになり、神戸大学などの学生が 20～30 人単位で地域に入り、田んぼづくりやそば打ち体験を実施した。神戸大学の先生方は、学生が「頭でっかちで実践が伴わない」という問題意識を持っていたため、農業体験を実施したという。 ・自身が買い上げた空き家を学生の地域活動の拠点にできないかと考えている。そこに、学生が寝泊まりして、畑仕事を通じて、地域交流ができればと思う。最近の学生たちは、地域のおじいちゃん・おばあちゃん達と話がしたい、イベントに積極的に参加したいという意向を持っている。そのような新たな試みの輪を広げて行きたい。 ・５月には大学の学生さんが 20～30 人来て、農作業の支援をしていただく予定である。そこでは、地域の学生達との交流も大事にしていきたいと考えており、新たに親・高齢者世代との交流も生み出し、良い循環にしたい。 ・外から人を呼び込み、次につなげていくには、おもてなしのこころを尽くして泊まってもらうことが大事である。北部地域には良い宿泊施設があるので、先の農業体験などともしっかりと連携しながら、何泊もしてもらえるような仕組みを検討していただけると良い。 ・既存宿泊施設と地域の観光資源や農業を結びつけた企画があれば、喜んでもらえるのではないか。一歩動き出して問題点を把握する具体的な動きになれば、わくわくした取組となる。

	・今年度、モニターツアーを実施しており、提案いただいた内容についても、計画に反映していきたい。 ・朝食を地産地消がメインのメニューに変更した。「アナゴ飯」、「姫路おでん」などは宿泊客からは喜ばれるが、採算ベースでは、割に合わない。値段が高くなるので、売りにくく、売り出すと足りなくなるのが考えどころである。 ・地産地消のことで採算性の話があったが、市として公的な部分は支援するものの限界はあり、収益部分についてはビジネスの観点で民間事業者に頑張っていただきたい。 ・事業者の進出や定住の促進にあたっては、固定資産税の減免や雇用促進など、利点がないと企業は来ないし、定住者も雇用先がないと来ない。 ・過疎化が進み、家屋がつぶれてしまうような事例はたくさん見受けられるが、ほぼ空き家対策は全国どこでも、一緒である。お金を出す以外にも方法があると思う。 ・少子化については、今の人口からは増えないと考えている。若者の心理が昔とは違う。ひとつは、国の施策を通して変えなければ、少子化は食い止めることはできない。 ・安富地域については、世代交代が進まず高齢で農業に携わる方が多い。少ない面積でも草刈の費用等がでる多面的機能等の補助金があるので、支援・指導いただきたい。 ・36 頁「ゆずの見える化」に関して、奥まったところで栽培されているため、「本当にゆずがあるのか」と良く聞かれる。街路樹のようにゆずを植えているところもあるが、畑で作るのと違い、あまり成長しない。 ・「街路沿いに植栽することで景観を演出する」とあるが、誰がそれを行うのか。国道沿いは個人の土地が多く、またゆずは育って実がつくまでに時間がかかることも含め、難しい点もある。
地域活性化に向けたアクションプログラムについて	・41 頁の集落営農については、20 年前から言われている。10 年前にこの計画があれば動いたかもしれないが、現在は、高齢化が進行してしまっており、担い手を育てることができず法人化は無理である。 ・今後は無人化の時代であり、無人のトラクターやドローンにより、農家が要らなくなる。経営者さえいれば、20～30ｈａをオペレーター付きでレンタルし、無人で運営する時代が来る。それを含めて、農業特区が姫路市の北部でできるようになればありがたい。ＧＰＳだけでは弱いので基地局をつくれば、大区画を無人で経営することも可能である。ドローンも進化しているものの、法規制で、できないこともあり、数年先の話になる。北部において、例えば農業特区や医療特区を設けて試験的にやってみることはできないか。 ・機械化の取組としては、来年度から農業振興センターで研究を進めるための予算を確保している。また、ＪＡとの連携についても、補助金等確保している。夢前や安富地域に特化した事業を中心に記載しようとしているため、全市的に取り組むことが抜けているところもあるので、わかりやすい表現を工夫してみたい。 ・全市的な取組でも、特に北部で進めるべきというものを頭出し出来れば良い。北部は全市と前提条件が違うため、北部でこそ試験的にやる意味があるという方針を打ち出せればと思う。

	・38 頁のアクションプログラムにおいては、「ＩＴ等を活用しながら」という記載はあるものの、ＩＴをどのように活用していくのかが見えないため、具体的な取組や成果が見えた方が良いと思う。 ・39 頁はやや具体的だが、38、40、41 頁は具体的ではなく、動き出すという期待感がもてない。誰をターゲットにして、何をするのか、もう少し具体的なことが読み取れるようにしたほうが予算化の時には楽かと思う。 ・（林福連携について）間伐材の搬出等は林業の作業を、福祉作業所が取り組むケース（千葉県香取市など）もでてきており、そのような施策も可能性としてはありえるものとして記載している。 ・山の所有者がわからない場合があるが、今後森林環境税をうまく活用して、管理・保全する取り組みが必要である。 ・山については、切ったら切りっぱなし、雨が降ったら土砂が出るといった問題がある。山は厄介者といった意識があり、無償でもらって欲しいという人もいる。 ・バイオマス燃料として材が売れ、少しでもお金が入ってくると意識も変わる。そういった方向性に導いていただきたい。 ・県の補助により、北部の里山、山際については比較的整備されてきれいになっているが、いつまで続くか不安である。 ・見学に行った中村集落では、木を切り倒して、子どもたちと一緒にカエデなどを植栽する取組をされている。見学にいったが、一生懸命されていると感じた。様々な取り組みをしている集落もあり、互いの集落と連携できれば、頑張る力となるのでは。 ・県民みどり税には３種類の補助金があり、野生動物育成林整備、里山防災林整備、住民参加型森林整備の３種類の補助金がある。市を通して 250 万円の補助を受けることができる。 ・どこかの地域にスポットを当て、短期的にヒト・モノ・カネを集中していかないといけない。北部活性化をアピールするためには、総花的過ぎる。プロジェクト検討部会に出ている人材も含め、もう少し濃淡のある記載にすべきである。 ・やや具体性に欠けるように思う。住民・地域・企業が参画する動機付けが必要である。地区内の企業で働く町外に住む従業員も多い。メリットがあれば、定住につながるのではないか。地域でモデル地区をつくって実行していくことも大事。漠然と計画ができても、住民が何をして良いか分からない。 ・基本方針の進め方として、18 頁に「選択と集中」について記載している。総花的な取組みではなく、集中的な進め方を意識している。北部農山村は、地域活力の低下、少子高齢化、定住人口の減少等の象徴的な地域なので、あくまでモデル的に集中して取り組まなければならないが、将来的には市域全体に広げていくことが重要と考えている。 ・国は、頑張る地域にはお金（補助金）を出すということが基本姿勢である。総務省のアドバイザー派遣制度や小さな拠点への支援金等のメニューを、活用しながら、もう少し具体的に進めるための、きめ細かく人づくりの施策を展開していく必要があると

	思う。 ・行政支援のなかで、公共交通をどのように確保していくのか。デマンドに取り組まれているが、お金の問題がでてくる。市内の高齢者は補助によってバス代などが賄われており、便利なところに住めば、年間 8,000 円の補助で山陽電車やバス、JR が使える。北部地域では、実際に使っている人は少ないため、その費用をデマンドに入れて活用できないか。
地域の拠点施設について	・夢前町の産業廃棄物最終処分場予定地となっている土地は、姫路市で買い上げていただいた後、豊かな自然をそのまま残し、四季を通して自然を楽しめる公園、北部農山村地域の活性化の拠点施設を造っていただきたい。自然環境豊かで、四季や風景を楽しめ、動植物に溢れ、自然遊びができる施設整備ができればと考えている。 ・散策道を整備していただくことで、ウォーキングコースとして利用する人が増える。また、クラフト教室やフリーマーケット等を計画することによって、一層の集客力や雇用も生まれると思う。四季折々の自然を楽しめる公園を拠点として、北部活性化につなげたい。 ・市議会において、今後用地交渉の環境が整えば、検討会での意見等を踏まえつつ、当該用地の買収を前提としながら、その活用方法を検討するとされている。我々も、地域の意見に沿って進めていくことが効果的だと考えている。今言われた、地形や自然環境、地域資源を活かし、四季折々の自然を楽しめる拠点づくりに向け、来年度、産廃処分場の跡地利用の基本方針のための予算をとっている。それらについて、基本計画に書き込んでいきたいと思う。
推進体制について	・農協は改革を打ち出しており、農産物の売り先確保、農業機械の購入で農業振興に向けた環境を作っていただいている。先日、農協の職員とたまねぎやじゃがいもの営業に行ったのだが、先方では、とうもろこしが良いということで、１日１万本、３日間で 500 万円という規模のイベント販売に結びついた。その事業を夢前の若い農家につなげて一緒に取り組んでいる。委員にＪＡも入っていただいているので、ＪＡとの連携について記載すれば、ＪＡも協力しやすいと思う。 ・基本計画の施策を見せてもらったが、農協としても全部に関わってきている。農協の改革は最終年度となるが、農業生産の拡大、所得の増大、地域の活性化に今後も取り組んで行く。 ・農協各支店ではふれあいフェスタや感謝祭などのイベントで地域と密着した取り組みを進めている。また、保育園児や小学生を対象としたふれあい農園の取り組みでは、農業体験を通じ、いずれは地域で農業をしていただきたいという想いを持っている。 ・ざっと読ませていただいたところ、「誰がするのだろう」と率直に思った。取り組みが実際にどのように進んでいくのかが大事である。 ・素晴らしい計画だとは思うが、行政がどのように支援していくのか。具体的に見えない。 ・地域も人に任せるのではなく、自分たちでやって行くという姿勢が大事である。地域の出前講座などに、自治会長や農会長が集まって会合して関わりを持つことが大事だ

	と思う。 ・基本計画が策定され、その後に実施計画が作られるのか。 ・今の段階では実施計画にブレークダウンして策定する予定は無い。ただ、ここでいただいた意見は、基本計画の中の年次計画に反映していくことになる。 ・行政の役割、国の施策、地域住民の力をどのように結びつけるかを詰めたほうがよいかなと思う。現在頑張っている方が、しんどいと感じ始めて、後退しかねないかなと心配している。